

I. 海洋放出に係わる監視項目

測定対象	採取		測定		測定値 ^{注1}		平常の変動幅 ^{注1,注3} 最小～最大	単位	備考	
	採取点 ^{注2}	頻度	頻度	対象	最小～最大	比較対照 最小～最大				
海水	放出口付近 5点 (5点混合試料測定)	1回/3か月	1回/3か月	全β放射能 ³ H	ND ND		ND～0.044 ND	Bq/L	北約20km点は、第2四半期報告済。	
	久慈沖及び磯崎沖 2点	1回/6か月	1回/6か月	全β放射能 ³ H	ND ND		ND～0.044 ND			
	北約20km点 1点*	1回/年	1回/年	全β放射能 ³ H			ND～0.044 ND			
	放出口付近 5点 (5点混合試料測定) 北約20km点 1点*	1回/年	1回/年	⁹⁰ Sr ¹⁰⁶ Ru ¹³⁴ Cs ¹³⁷ Cs ¹⁴⁴ Ce ^{238,240} Pu			ND ND～0.0020 ND ND ND ND			Bq/L
海底土	放出口付近 5点 (5点混合試料測定)	1回/6か月	1回/6か月	⁹⁰ Sr			ND～0.13	Bq/kg・乾	第1四半期、第3四半期報告済。	
	¹⁰⁶ Ru					ND				
	¹³⁴ Cs					ND				
	¹³⁷ Cs					ND～1.0				
久慈沖及び磯崎沖 2点			¹⁴⁴ Ce			ND				
北約20km点 1点*			^{238,240} Pu			0.080～0.90				
海産生物	シラス	東海村地先 1点 約10km以遠 1点*	1回/3か月	1回/3か月	⁹⁰ Sr	—	ND	ND	Bq/kg・生	東海村地先は採取不能。
					¹⁰⁶ Ru	—	ND	ND		
					¹³⁴ Cs	—	ND	ND		
					¹³⁷ Cs	—	0.17 ^{注5}	ND～0.11		
	カレイ又はヒラメ	東海村地先 1点 約10km以遠 1点*	1回/3か月	1回/3か月	⁹⁰ Sr	ND	ND	ND	Bq/kg・生	東海村地先の対象: ヒラメ 約10km以遠の対象: ヒラメ
					¹⁰⁶ Ru	ND	ND	ND		
					¹³⁴ Cs	ND	ND	ND		
					¹³⁷ Cs	1.1 ^{注5}	0.44 ^{注5}	0.044～0.16		
	貝類	久慈浜地先 1点 約10km以遠 1点*	1回/3か月	1回/3か月	¹⁴⁴ Ce	—	ND	ND	Bq/kg・生	久慈浜地先は採取不能。 約10km以遠の対象: ハマグリ
					^{238,240} Pu	—	ND	ND		
					⁹⁰ Sr	—	ND	ND		
					¹⁰⁶ Ru	—	ND	ND		
	褐藻類 (ワカメ又はヒジキ等)	久慈浜地先 1点 磯崎地先 1点 約10km以遠 1点*	1回/3か月	1回/3か月	¹³⁷ Cs	—	0.052 ^{注5}	ND	Bq/kg・生	久慈浜地先の対象: ワカメ 磯崎地先の対象: アラメ 約10km以遠の対象: アラメ
					¹⁴⁴ Ce	—	ND	ND		
					^{238,240} Pu	—	ND	ND～0.0040		
					⁹⁰ Sr	ND	0.021	ND～0.057		
漁網	東海村地先において曳航の漁網	1回/3か月	1回/3か月	¹⁰⁶ Ru	ND	ND	ND	nGy/h		
				¹³⁴ Cs	ND	ND	ND			
				¹³⁷ Cs	ND, 0.092 ^{注5}	0.11 ^{注5}	ND～0.068			
				¹⁴⁴ Ce	ND	ND	ND			
船体	甲板	1回/3か月	1回/3か月	^{238,240} Pu	ND	ND	ND～0.0089	nGy/h		
				β線吸収線量率	ND		ND ^{注4}			
				γ線表面線量率	ND		ND ^{注4}			
				γ線表面線量率	ND		ND ^{注4}			
海岸水	久慈浜海岸 1点 阿字ヶ浦海岸 1点 南北約20km点 各1点*	1回/6か月	1回/年	全β放射能			ND～0.085	Bq/L	第1四半期、第3四半期報告済。	
				³ H			ND			
				⁹⁰ Sr			ND～0.0021			
				¹⁰⁶ Ru			ND			
海岸砂	久慈浜海岸 1点 阿字ヶ浦海岸 1点 南北約20km点 各1点*	1回/3か月	1回/3か月	¹³⁴ Cs			ND	Bq/L	第3四半期報告済。	
				¹³⁷ Cs			ND			
				¹⁴⁴ Ce			ND			
				^{238,240} Pu			ND～0.000047			
表面線量	β線表面線量率	63, 97 ^{注5}	79, 82	52～88	cpm					
										γ線表面線量率

注1) ND: 定量下限値未満を示す。

注2) *: 比較対照を示す。

注3) 平常の変動幅は、平成13年度～平成22年度までの過去10年間の変動幅である(東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を除く。)

注4) 平常の変動幅は、漁網、船体については平成16年度～平成22年度までの過去7年間の変動幅である(東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を除く。)

注5) 平常の変動幅の範囲を上回ったものについては、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を含む。

II. その他の保安規定で定める監視項目

測定対象	採取		測定		測定値 ^{注1}		平常の変動幅 ^{注1,注3} 最小～最大	単位	備考	
	採取点 ^{注2}	頻度	頻度	対象	最小～最大	比較対照 最小～最大				
空間放射線	線量率 周辺監視区域内 9点 周辺監視区域外 3点	連続	連続	モニタリング ポスト	64~79 ^{注4}	/	35~47 (42±8)	nGy/h	1時間値の月平均値を示す。 設置数:8基 1時間値の月平均値を示す。 設置数:4基	
				モニタリング ステーション	44~50 ^{注4}		41~42 ^{注4}			31~36 (33±5)
	積算線量 (TLD)	周辺監視区域内 15点 周辺監視区域外 25点	連続	1回/3か月	γ線	100~270 ^{注4}	80~130 ^{注4}	40~110 (80±40)	μGy/91日	12月26日～3月27日
空気	浮遊じん	周辺監視区域内 3点 周辺監視区域外 4点	連続	1回/週	全α放射能 全β放射能	ND~0.059 ND~0.71	0.029~0.057 ND	ND~0.088 ND~0.93	mBq/m ³	
				1回/3か月	⁹⁰ Sr	ND	ND	ND		
					¹³⁷ Cs	ND~0.028 ^{注4}	ND	ND		
					^{238,240} Pu	ND	ND	ND		
	ヨウ素	周辺監視区域内 1点 周辺監視区域外 3点	連続	1回/週	¹³¹ I	ND	ND	ND	mBq/m ³	
気体状β放射能濃度	周辺監視区域内 1点 周辺監視区域外 3点	連続	連続	⁸⁵ Kr	ND	ND	ND	kBq/m ³		
水分	周辺監視区域外 2点	連続	1回/月	³ H	ND	ND	ND~6.9	Bq/L		
雨水	周辺監視区域内 1点	連続	1回/月	³ H	ND	/	ND~4.8	Bq/L		
降下じん	周辺監視区域内 1点	連続	1回/月	全β放射能	5.3~17	/	ND~65	Bq/m ²		
飲料水	周辺監視区域内 1点 周辺監視区域外 3点	1回/3か月	1回/3か月	全β放射能	0.050~0.063	0.062	ND~0.087	Bq/L		
			1回/3か月	³ H	ND	ND	ND			
葉菜	周辺監視区域外 3点	1回/3か月	1回/3か月	¹³¹ I	ND	ND	ND	Bq/kg・生	対象:白菜 第3四半期報告済。	
			1回/年	⁹⁰ Sr	/	/	ND~0.20			
				¹³⁷ Cs	/	/	ND			
				^{238,240} Pu	/	/	ND			
精米	周辺監視区域外 3点	1回/年	1回/年	¹⁴ C	/	/	0.22~0.25	Bq/g・炭素 Bq/kg・生	第3四半期報告済。	
			1回/年	⁹⁰ Sr	/	/	ND			
牛乳	周辺監視区域外 2点	1回/3か月	1回/3か月	¹³¹ I	ND	ND	ND	Bq/L・生	第3四半期報告済。	
			1回/年	⁹⁰ Sr	/	/	ND~0.033			
表土	周辺監視区域内 2点 周辺監視区域外 3点	1回/年	1回/年	⁹⁰ Sr	/	/	ND~4.7	Bq/kg・乾	第3四半期報告済。	
				¹³⁷ Cs	/	/	2.9~33			
				^{238,240} Pu	/	/	0.060~1.2			
河川水	新川 3点 久慈川上流 1点*	1回/6か月	1回/6か月	全β放射能	/	/	ND~0.21	Bq/L	第1四半期、第3四半期報告済。	
			1回/6か月	³ H	/	/	ND			
河底土	新川 3点 久慈川上流 1点*	1回/6か月	1回/6か月	全β放射能	/	/	450~780	Bq/kg・乾	第1四半期、第3四半期報告済。	

注1) ND:定量下限値未満を示す。

注2) *:比較対照を示す。

注3) 平常の変動幅は、空間放射線については平成20年度～平成22年度までの過去3年間、その他の測定対象については平成13年度～平成22年度までの過去10年間の変動幅である(東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を除く。)
ただし、空間放射線における平常の変動幅は、下段の()内の平均±3σで表す。

注4) 平常の変動幅の範囲を上回ったものについては、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を含む。

測定対象		測定対象	定量下限値		
			対象	定量下限値	単位
海水		全β放射能	全β放射能	0.04	Bq/L
		³ H	³ H	4	
	核種分析		⁹⁰ Sr	0.002	Bq/L
			¹⁰⁶ Ru	0.02	
			¹³⁴ Cs	0.008	
			¹³⁷ Cs	0.004	
			¹⁴⁴ Ce	0.02	
	^{239,240} Pu	0.00002			
海底土	核種分析	⁹⁰ Sr	0.08	Bq/kg・乾	
		¹⁰⁶ Ru	6		
		¹³⁴ Cs	1		
		¹³⁷ Cs	0.8		
		¹⁴⁴ Ce	6		
		^{239,240} Pu	0.04		
海産生物	核種分析	⁹⁰ Sr	0.02	Bq/kg・生	
		¹⁰⁶ Ru	0.8		
		¹³⁴ Cs	0.2		
		¹³⁷ Cs	0.04		
		¹⁴⁴ Ce	0.8		
		^{239,240} Pu	0.002		
漁網	表面線量	β線吸収線量率	β線	30	nGy/h
		γ線表面線量率	γ線	10	nGy/h
船体	表面線量	β線吸収線量率	β線	30	nGy/h
		γ線表面線量率	γ線	10	nGy/h
海岸水		全β放射能	全β放射能	0.04	Bq/L
		³ H	³ H	4	
	核種分析		⁹⁰ Sr	0.002	Bq/L
			¹⁰⁶ Ru	0.02	
			¹³⁴ Cs	0.008	
			¹³⁷ Cs	0.004	
			¹⁴⁴ Ce	0.02	
	^{239,240} Pu	0.00002			
海岸砂	表面線量	β線表面計数率	β線	—	cpm
		γ線表面線量率	γ線	—	nGy/h

測定対象		測定対象	定量下限値		
			対象	定量下限値	単位
空間放射線	線量率	γ 線	γ 線	—	nGy/h
	積算線量(TLD)	γ 線	γ 線	—	μ Gy/91日
空気	浮遊じん	全 α 放射能	全 α 放射能	0.02	mBq/m ³
		全 β 放射能	全 β 放射能	0.7	
		核種分析	⁹⁰ Sr	0.01	mBq/m ³
	¹³⁷ Cs		0.007		
	^{239,240} Pu		0.0001		
	ヨウ素	¹³¹ I	¹³¹ I	0.2	mBq/m ³
	気体状 β 放射能濃度	⁸⁵ Kr	⁸⁵ Kr	7	kBq/m ³
水分中 ³ H	³ H	³ H	4	Bq/L	
雨水	³ H	³ H	4	Bq/L	
降下じん	全 β 放射能	全 β 放射能	4	Bq/m ²	
飲料水	全 β 放射能	全 β 放射能	0.04	Bq/L	
	³ H	³ H	4		
葉菜	核種分析	¹³¹ I	¹³¹ I	1	Bq/kg・生
		⁹⁰ Sr	0.04		
		¹³⁷ Cs	0.08		
		^{239,240} Pu	0.0002		
精米	¹⁴ C	¹⁴ C	0.005	Bq/g・炭素	
	⁹⁰ Sr	⁹⁰ Sr	0.04	Bq/kg・生	
牛乳	¹³¹ I	¹³¹ I	0.2	Bq/L・生	
	⁹⁰ Sr	⁹⁰ Sr	0.02		
表土	核種分析	⁹⁰ Sr	0.08	Bq/kg・乾	
		¹³⁷ Cs	0.8		
		^{239,240} Pu	0.04		
河川水	全 β 放射能	全 β 放射能	0.04	Bq/L	
	³ H	³ H	4		
河底土	全 β 放射能	全 β 放射能	80	Bq/kg・乾	

参 考 資 料

平成 29 年度 第 4 四半期

期 間 自 平成 30 年 1 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

1. 気体廃棄物の放出状況

(1) 主排気筒に係る放出状況

イ. 放出期間

自 平成 30 年 1 月 1 日
至 平成 30 年 3 月 31 日

ロ. 放出状況

対象期間に放出された主要核種と放出量は、以下のとおりであった。

主要核種	基準放出量 (注) (GBq/3か月)	対象期間放出量 (GBq/3か月)	備 考
^{85}Kr	2.7×10^7	微	
^3H	1.7×10^5	4.0×10	
^{14}C	1.5×10^3	微	
^{131}I	4.8	微	
^{129}I	5.2×10^{-1}	微	

- ・ (注) 主排気筒・第一付属排気筒・第二付属排気筒の合計。
- ・ 「微」とあるのは、定量下限値未満であることを示す。

(2) 第一付属排気筒に係る放出状況

イ. 放出期間

自 平成 30 年 1 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

ロ. 放出状況

対象期間に放出された主要核種と放出量は、以下のとおりであった。

主要核種	基準放出量 (注) (GBq/3か月)	対象期間放出量 (GBq/3か月)	備 考
^{85}Kr	2.7×10^7	微	
^3H	1.7×10^5	微	
^{14}C	1.5×10^3	微	
^{131}I	4.8	微	
^{129}I	5.2×10^{-1}	微	

- ・ (注) 主排気筒・第一付属排気筒・第二付属排気筒の合計。
- ・ 「微」とあるのは、定量下限値未満であることを示す。

(3) 第二付属排気筒に係る放出状況

イ. 放出期間

自 平成 30 年 1 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

ロ. 放出状況

対象期間に放出された主要核種と放出量は、以下のとおりであった。

主要核種	基準放出量 (注) (GBq/3か月)	対象期間放出量 (GBq/3か月)	備考
^{85}Kr	2.7×10^7	微	
^3H	1.7×10^5	微	
^{14}C	1.5×10^3	微	
^{131}I	4.8	微	
^{129}I	5.2×10^{-1}	微	

- ・ (注) 主排気筒・第一付属排気筒・第二付属排気筒の合計。
- ・ 「微」とあるのは、定量下限値未満であることを示す。

2. 液体廃棄物の放出状況

イ. 放出期間

自 平成 30 年 1 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

ロ. 放出状況

対象期間中に放出された主要核種は以下のとおりであった。

主要核種	基準放出量 (GBq /3 か月)	対象期間放出量 (GBq /3 か月)	備 考
全 α 放射能	1. 0	微	
全 β 放射能 (注)	$2. 4 \times 10^2$	微	
^{89}Sr	4. 1	微	
^{90}Sr	8. 1	微	
$^{95}\text{Zr} - ^{95}\text{Nb}$	$1. 0 \times 10$	微	
^{103}Ru	$1. 6 \times 10$	微	
$^{106}\text{Ru} - ^{106}\text{Rh}$	$1. 3 \times 10^2$	微	
^{134}Cs	$1. 5 \times 10$	微	
^{137}Cs	$1. 4 \times 10$	微	
^{141}Ce	1. 5	微	
$^{144}\text{Ce} - ^{144}\text{Pr}$	$3. 0 \times 10$	微	
^3H	$4. 7 \times 10^5$	$5. 2 \times 10$	
^{129}I	6. 7	微	
^{131}I	$3. 0 \times 10$	微	
$\text{Pu}(\alpha)$	$5. 9 \times 10^{-1}$	微	

- ・ (注) トリチウムを除く
- ・ 「微」とあるのは、定量下限値未満であることを示す。

3. その他の状況

1 月期及び 2 月期に主排気筒において微量の α 放射能 (主に Am-241) を検出した。

4. 環境監視結果

東京電力福島第一原子力発電所事故の影響が見られた。

(参考メモ)平成29年度第4四半期環境放射線モニタリング報告について

測定項目		今期の特徴	
海水	全β放射能	特になし	
	³ H		
海水	⁹⁰ Sr	報告対象外	
	¹⁰⁶ Ru		
	¹³⁴ Cs		
	¹³⁷ Cs		
	¹⁴⁴ Ce		
	^{239,240} Pu		
海底土	⁹⁰ Sr	報告対象外	
	¹⁰⁶ Ru		
	¹³⁴ Cs		
	¹³⁷ Cs		
	¹⁴⁴ Ce		
	^{239,240} Pu		
海産生物	⁹⁰ Sr	シラス(東海村地先)及び貝類(久慈浜地先)は、漁獲が無い ため採取不能となった。 褐藻類(久慈浜地先)を除く全ての海産生物の ¹³⁷ Csについて は、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を含み、平 常の変動幅の範囲を上回った。	
	¹⁰⁶ Ru		
	¹³⁴ Cs		
	¹³⁷ Cs		
	¹⁴⁴ Ce		
	^{239,240} Pu		
漁網	表面線量	β線吸収線量率	特になし
	線量		
船体	表面線量	β線吸収線量率	特になし
	線量		
海岸水	全β放射能	報告対象外	
	³ H		
	⁹⁰ Sr		
	¹⁰⁶ Ru		
	¹³⁴ Cs		
	¹³⁷ Cs		
	¹⁴⁴ Ce		
	^{239,240} Pu		
海岸砂	表面線量	β線表面計数率	β線表面計数率(阿字ヶ浦海岸)については、環境レベルの 変動及び東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を含 み、平常の変動幅の範囲を上回った。
	線量		

注) 平常の変動幅は、平成13年度～平成22年度までの過去10年間の変動幅である(東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を除く。)

測定項目		今期の特徴
空間放射線	線量率	東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を含み、平常の変動幅の範囲を上回った。
	積算線量(TLD)	周辺監視区域内12点、周辺監視区域外7点については、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を含み、平常の変動幅の範囲を上回った。
空気中放射性物質濃度	浮遊じん 全 α 放射能 全 β 放射能 ^{90}Sr ^{137}Cs $^{239,240}\text{Pu}$	^{137}Cs (周辺監視区域内2点)については、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を含み、平常の変動幅の範囲を上回った。
	^{131}I	特になし
	気体状 β 放射能濃度	特になし
	水分中 ^3H	特になし
雨水	^3H	特になし
降下じん	全 β 放射能	特になし
飲料水	全 β 放射能 ^3H	特になし
葉菜	^{131}I ^{90}Sr ^{137}Cs $^{239,240}\text{Pu}$	特になし } 報告対象外
精米	^{14}C ^{90}Sr	報告対象外
牛乳	^{131}I ^{90}Sr	特になし 報告対象外
表土	^{90}Sr ^{137}Cs $^{239,240}\text{Pu}$	報告対象外
河川水	全 β 放射能 ^3H	報告対象外
河底土	全 β 放射能	報告対象外

注) 平常の変動幅は、空間放射線については平成20年度～平成22年度までの過去3年間、その他の測定対象については平成13年度～平成22年度までの過去10年間の変動幅である(東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を除く。)



平成29年度 第4四半期 (平成30年 1月 1日～平成30年 3月31日)

環 境 放 射 線 管 理 報 告 書

2018再放発第4号
平成30年 4月27日

原子力規制委員会 殿

住所
青森県上北郡六ヶ所村大字尾駸
字沖付4番地108

名称及び代表者の氏名
日本原燃株式会社
代表取締役社長 社長執行役員
工藤 健二

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第67条第1項及び使用済燃料の再処理の事業に関する規則第21条第2項の規定により次のとおり報告します。

工場又は 事業所	名 称	再処理事業所
	所在地	〒039-3212 青森県上北郡六ヶ所村大字尾駸
事務上の 連絡先	名 称	東京支社
	所在地	〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 (電話番号) [REDACTED]
	連絡員 の氏名	[REDACTED] (所属部課名) 技術部 技術管理グループ

測定対象	採取		測定			測定値 ^{注1)}		平常の変動幅 ^{注1,注2)}	単位	備考
						最小～最大	比較対照			
							最小～最大			
採取点	頻度	頻度	対象	最小～最大	最小～最大					
空間放射線	線量率	敷地内9地点	連続	連続	モニタリングポスト	9~48		16±11 (9~75)	nGy/h	・1時間平均値を示す。
		敷地外3地点			モニタリングステーション	11~51		21±12 (12~70)		
	積算線量	敷地内9地点 敷地外14地点	連続	1回/3月	γ線	74~92	71	94±23 (73~113)	μGy/91日	・測定値は、81日当たりに換算した値を示す。 ・設置期間 敷地内：H28.12.26～H30.3.27 敷地外：H28.12.27～H30.3.28
空気	浮遊じん	敷地内8地点	連続	連続	全α放射能	4.8		16	Bq/m ³	・1時間平均値の当該期間の最大値を示す。
		敷地外3地点	連続	1回/週	全β放射能	4.7		13	mBq/m ³	
	気体状β放射能濃度	敷地内8地点	連続	連続	全α放射能	0.024~0.071		*~0.37	mBq/m ³	
		敷地外3地点	連続	連続	全β放射能	0.38~0.88		*~1.3	mBq/m ³	
	可溶性	敷地内8地点	連続	1回/3月	¹⁰⁶ Ru	ND		ND	mBq/m ³	
		敷地外3地点	連続	連続	Pu(α) ^{注3)}	ND		ND	mBq/m ³	
大気中水分	敷地外3地点	連続	連続	⁴⁵ Kr	ND		ND~8	kBq/m ³	・1時間平均値を示す。	
	敷地外3地点	連続	1回/週	¹³¹ I	ND		ND	mBq/m ³		
飲料水	敷地外4地点	1回/3月	1回/3月	² H	ND		ND~3	Bq/L	mBq/L	
				⁶⁰ Sr	ND		ND~0.4			
				¹⁰⁶ Ru	ND		ND			
				¹³⁷ Cs	ND		ND			
				Pu(α) ^{注3)}	ND		ND			
				⁸⁰ Sr	ND		1.2~8.4			
陸上植物	土	敷地内1地点 敷地外3地点	1回/年	1回/年	¹⁰⁶ Ru			ND	Bq/kg・乾	・第2四半期報告済
					¹²⁹ I			ND		
					¹³⁷ Cs			7~37		
					Pu(α) ^{注3)}			0.23~0.91		
					²⁴¹ Am			0.09~0.33		
					²⁴⁴ Cm			ND		
湖底土	敷地外1地点	1回/年	1回/年	⁹⁰ Sr			ND~0.8	Bq/kg・乾	・第3四半期報告済	
				¹³⁷ Cs			4~13			
				Pu(α) ^{注3)}			0.73~1.3			
				²⁴¹ Am			0.29~0.46			
陸上植物	精米	敷地外3地点	1回/年	1回/年	¹⁴ C			0.23~0.26	Bq/g・炭素	・第3四半期報告済
					¹⁰⁶ Ru			ND		
	根	敷地外2地点	1回/年	1回/年	Pu(α) ^{注3)}			ND	Bq/kg・生	・第2四半期報告済 対象：パレイシヨ(1地点) ・第3四半期報告済 対象：ナガイモ(1地点)
					¹⁰⁶ Ru			ND		
	葉	敷地外1地点	1回/年	1回/年	¹⁰⁶ Ru			ND	Bq/kg・生	・第3四半期報告済 対象：ハクサイ
					Pu(α) ^{注3)}			ND		
畜産物	牛乳	敷地外4地点	1回/3月	1回/3月	¹⁰⁶ Ru	ND		ND	Bq/L	

注1) ND: 定量下限値未満を示す。また、測定値が計数誤差の3倍以下の場合検出限界以下とし、「*」で示す。

注2) 平成7年度から平成22年度までに実施した測定結果の最小値から最大値を示す。

ただし、浮遊じん及び陸上植物のPu(α)、陸土のPu(α)、²⁴¹Am、²⁴⁴Cmは、平成14年度から平成22年度までに実施した測定結果の最小値から最大値を示す。

また、空間放射線(線量率及び積算線量)は、平成18年度から平成22年度までに実施した測定結果の平均値±(標準偏差の3倍)を示し、()内の数値は最小値から最大値を示す。

注3) Pu(α): ²³⁸Puと^{239,240}Puの合計値を示す。

測定対象	採取		測定		測定値 ^{注1}			単位	備考		
					最小～最大	比較対照	平常の変動幅 ^{注2}				
										最小～最大	最小～最大
採取点	頻度	種類	対象								
海	水	1回/3月	1回/3月	³ H	ND		ND	Bq/L			
				⁹⁰ Sr	ND		ND～3	mBq/L			
				⁶⁰ Co	ND		ND				
				¹⁰⁶ Ru	ND		ND				
				¹³⁴ Cs	ND		ND				
				¹³⁷ Cs	ND		ND				
				¹⁴⁴ Ce	ND		ND				
				¹⁵⁴ Eu	ND		ND				
Pu(α) ^{注3}	ND		ND								
海	底土	1回/8月	1回/8月	⁹⁰ Sr			ND	Bq/kg・乾	・第1,3四半期報告済		
				⁶⁰ Co			ND				
				¹³⁴ Cs			ND				
				¹³⁷ Cs			ND				
				¹⁴⁴ Ce			ND				
				¹⁵⁴ Eu			ND				
				Pu(α) ^{注3}			0.10～0.75				
				²⁴¹ Am			ND～0.30				
				²⁴⁴ Cm			ND				
				海	魚類	1回/3月	1回/3月			³ H	ND
¹⁰⁶ Ru	ND		ND								
Pu(α) ^{注3}	ND		ND								
¹⁰⁶ Ru	ND		ND					Bq/kg・生	・今期対象:ムラサキイシコガイ		
Pu(α) ^{注3}	ND		ND～0.010								
海	藻類	1回/3月	1回/3月					¹⁰⁶ Ru	ND		ND
				Pu(α) ^{注3}	0.002		ND～0.012				
漁	網	1回/3月	1回/3月	γ 線表面線量率	ND		ND	nGy/h			
				β 線吸収線量率	ND		ND～50	nGy/h			

注1) NO:定値下限値未満を示す。

注2) 平成7年度から平成22年度までに実施した測定結果の最小値から最大値を示す。

ただし、海底土のPu(α)、²⁴¹Am、²⁴⁴Cm及び海産生物のPu(α)は平成14年度から平成22年度までに実施した測定結果の最小値から最大値を示す。
また、漁網の γ 線表面線量率及び β 線吸収線量率は、平成17年度から平成22年度までに実施した測定結果の最小値から最大値を示す。

注3) Pu(α):²³⁹Puと²⁴⁰Puの合計値を示す。

別表 定量下限値一覧

測定項目		単位	定量下限値
空 気	浮遊じん	^{106}Ru	mBq/m^3 0.2
		$\text{Pu}(\alpha)$	mBq/m^3 0.0002
		^{238}Pu $^{239,240}\text{Pu}$	mBq/m^3 0.0002
	気体状β放射能濃度	^{85}Kr	kBq/m^3 2
	ヨウ素	^{131}I	mBq/m^3 0.2
大気中湿分	^3H	mBq/m^3 40	
飲 料 水		^3H	Bq/L 2
		^{90}Sr	mBq/L 0.4
		^{106}Ru	mBq/L 60
		^{137}Cs	mBq/L 6
		$\text{Pu}(\alpha)$	mBq/L 0.02
	^{238}Pu $^{239,240}\text{Pu}$	mBq/L 0.02	
陸 土	表土	^{90}Sr	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 0.4
		^{106}Ru	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 20
		$^{129}\text{I}^*1$	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 5
		^{137}Cs	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 3
		$\text{Pu}(\alpha)$	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 0.04
		^{238}Pu $^{239,240}\text{Pu}$	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 0.04
	湖底土	^{241}Am	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 0.04
		^{244}Cm	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 0.04
		^{90}Sr	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 0.4
		^{137}Cs	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 4
		$\text{Pu}(\alpha)$	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 0.04
		^{238}Pu $^{239,240}\text{Pu}$	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 0.04
陸上植物	精米	^{14}C	$\text{Bq}/\text{g}\cdot\text{炭素}$ 0.005
		^{106}Ru	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{生}$ 4
		$\text{Pu}(\alpha)$	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{生}$ 0.002
		^{238}Pu $^{239,240}\text{Pu}$	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{生}$ 0.002
	根菜	^{106}Ru	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{生}$ 4
		$\text{Pu}(\alpha)$	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{生}$ 0.002
	葉菜	^{106}Ru	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{生}$ 4
		$\text{Pu}(\alpha)$	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{生}$ 0.002
		^{238}Pu $^{239,240}\text{Pu}$	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{生}$ 0.002
		^{238}Pu $^{239,240}\text{Pu}$	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{生}$ 0.002
畜産物	牛乳	^{106}Ru	Bq/L 4

*1:放射化学分析法

測定項目		単位	定量下限値
海 水		^3H	Bq/L 2
		^{90}Sr	mBq/L 2
		^{60}Co	mBq/L 6
		^{106}Ru	mBq/L 60
		^{134}Cs	mBq/L 6
		^{137}Cs	mBq/L 6
		^{144}Ce	mBq/L 30
		^{154}Eu	mBq/L 10
		$\text{Pu}(\alpha)$	mBq/L 0.02
			^{238}Pu $^{239,240}\text{Pu}$
海 底 土		^{90}Sr	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 0.4
		^{60}Co	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 3
		^{134}Cs	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 3
		^{137}Cs	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 3
		^{144}Ce	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 8
		^{154}Eu	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 5
	$\text{Pu}(\alpha)$	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 0.04	
	^{238}Pu $^{239,240}\text{Pu}$	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 0.04	
	^{241}Am	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 0.04	
	^{244}Cm	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{乾}$ 0.04	
海 産 生 物		$^3\text{H}^*2$	Bq/L 2
		^{106}Ru	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{生}$ 4
		$\text{Pu}(\alpha)$	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{生}$ 0.002
	^{238}Pu $^{239,240}\text{Pu}$	$\text{Bq}/\text{kg}\cdot\text{生}$ 0.002	
漁 網		γ線表面線量率	nGy/h 10
		β線吸収線量率	nGy/h 30

*2:魚類の自由水中トリチウム

(参考資料)

環境放射線管理報告書（平成 29 年度第 4 四半期）における
空間放射線（線量率）の測定結果について

モニタリングポスト及びモニタリングステーションにおける空間放射線（線量率）のうち、平常の変動幅を上回った測定値は、表-1 に示すとおり、すべて降雨等に伴う空気中の天然放射性核種に起因する自然変動であった。

表-1 空間放射線（線量率）測定結果 (nGy/h)

測定			測定値		平常の変動幅を外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅 (注1)	アクティブ試験開始前の測定結果 (注2)
測定点	項目	頻度	測定地点	最小~最大		降雨等 (注3)	その他	平均値±3σ (最小~最大)	平均値±3σ (最小~最大)
敷地内 9地点	γ線	連続	MP-1	10~46	35	35	0	16±11 (9~75)	17±11 (7~81)
			MP-2	12~44	35	35	0		
			MP-3	9~45	47	47	0		
			MP-4	10~43	34	34	0		
			MP-5	11~40	31	31	0		
			MP-6	10~42	30	30	0		
			MP-7	10~43	39	39	0		
			MP-8	10~42	36	36	0		
			MP-9	11~41	35	35	0		
敷地外 3地点	γ線	連続	MS 老部川	11~51	20	20	0	21±12 (12~79)	20±12 (7~93)
			MS 二又	11~50	27	27	0		
			MS 室ノ久保	12~44	16	16	0		

(注1) 平常の変動幅は平成 18 年度から平成 22 年度までに実施した測定結果を示す。

(注2) アクティブ試験開始前の測定結果は平成 7 年度から平成 17 年度までに実施した測定結果を示す。

(注3) 空間放射線（線量率）の平常の変動幅を 1 時間値の平均値±（標準偏差の 3 倍）で算出した場合、降雨及び降雪時には空気中の天然放射性核種に起因して線量率が一時的に上昇するため、平常の変動幅を超えることがある。